

日本学術会議公開シンポジウム

地域研究の 「粋」を味わう

現地から中国、東南アジア、
アフリカ、中東を読む

申込不要

入場無料

2012年12月19日(水)

時) 13:00-18:00

於) 日本学術会議 講堂

開催趣旨

地域研究とは何か。海外のさまざまな現象を研究する「地域研究」が、日本で学問として市民権を得るようになって、半世紀近くが経つ。欧米の「エリア・スタディーズ」が冷戦期の戦略的な志向をもち、その学術性に疑問が投げかけられがちなのに対して、日本の地域研究は、より幅広く、特定の利害関係から自由な、豊かな学問として発展してきた。海外の現象から得られる「発見」。世界のなかに自らをおくことで可能となる「相対化」。海外のさまざまな事象を比較して、一般則を見出す「比較」。そしてそれぞれの地域の文化、社会の独自性を知ることを前提とする「多文化共生」。グローバル化された現代社会に、地域研究は不可欠である。本シンポジウムでは、中国、東南アジア、アフリカ、中東を舞台に、長年「地域研究」に携わってきた専門家が、それぞれの**地域研究の「粋」**を語る。同時に、同じ地域研究でも、それぞれが専門とする学問分野の違いによって多様なアプローチがあることを、報告から感じて欲しい。

会場へのアクセス

日本学術会議

最寄駅：
東京メトロ千代田線
「乃木坂」駅5番出口



プログラム

- 13:00 開催趣旨説明
田中耕司 (学術会議第一部会員、京都大学 特任教授、学術研究支援室長)
- 13:10 基調講演
酒井啓子 (学術会議第一部会員、千葉大学法経学部 教授)
武内進一 (学術会議第一部連携会員、日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域研究センター アフリカ研究グループ長)
- 13:40 第一報告
国分良成 (学術会議第一部連携会員、防衛大学校 学校長)
「地域研究としての中国研究—世界と日本のあいだ」
- 14:25 第二報告
桜井由躬雄 (東京大学 名誉教授、京都大学 客員教授)
「ベトナムの小村バックコックを舐める—「私」の地域学の20年—」
- 休憩
- 15:25 第三報告
松田素二 (京都大学文学研究科 教授)
「アフリカから多文化・多民族共生の技法を学ぶ—地域研究の醍醐味」
- 16:10 第四報告
長沢栄治 (東京大学東洋文化研究所 教授)
「地域研究における私的なものと公的なもの」
- 16:55 総合討論
17:55 閉会の辞
小松久男 (日本学術会議第一部会員、東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 特任教授)